

志木市低炭素まちづくり協議会（第1回）

～ 議事要旨 ～

- 日 時： 平成 25 年 10 月 30 日（水） 15:00～17:00
- 場 所： ふれあいプラザ（志木駅東口丸井 8F）
- 出席者： 埼玉大学大学院 理工学研究科：久保田尚教授（会長）
横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院：吉田聡准教授
国際興業グループ株式会社 運輸事業部運輸企画課
東武バスウェスト(株)新座営業事務所
志木駅東口広場タクシー組合 有限会社志木合同タクシー
東京電力株式会社志木支社
大東ガス株式会社
大村商事株式会社
志木市商工会 青年部
埼玉県警察本部 朝霞警察署 交通課
志木市：香川武文市長
志木市 都市整備部長
志木市 企画部 政策推進課長
志木市 市民生活部 生活安全課長
志木市 市民生活部 環境推進課長
志木市 都市整備部 都市計画課長
志木市 教育政策部 教育総務課長
(オブザーバー) 埼玉県 都市整備部 都市計画課
埼玉県 環境部 環境政策課
(事務局) 志木市 都市整備部 都市計画課
計量計画研究所（記録）
- 議事内容：
 - ・資料 1 “低炭素まちづくり計画の検討の進め方”を見ると計画策定にあたっての特有の表現が使われているので解説をお願いしたい。【会長】
⇒ロングリスト、バックキャスト、フォアキャスト、ロードマップの説明。【事務局】
 - ・国の中期目標を踏まえて、設定することのだが、いつ頃公表予定なのか。
⇒本来であれば、9月に公表される予定であったが、延びており、今年度中に公表予定と聞いているが、詳細は分からない。【事務局】
 - ・東日本大震災があり、原子力発電が止まっている中で、今後の原子力の方向性を議論し

ているので、中々国の目標が定まらないのが実情だと考えている。ただし、前政権がCO₂については、85%削減という大きい目標を掲げていたので、中長期的には、そのような大きな目標を掲げるべきではないかと考えている。

- ・他都市の事例とは。

⇒これまで5都市で策定しているが、本質的な計画ではない。ロングリストを作成するための参考事例は、低炭素まちづくり固有の施策というよりも、これまで行ってきた都市交通施策やエネルギー施策が参考になるので、国土交通省が取り組んでいる都市・地域総合交通戦略や、先導的都市環境整備推進計画等を参考に整理している。本日は、エッセンスのみを紹介しているが、今後機会を見て紹介していきたい。

【事務局】

- ・本計画でいう“低炭素”とはどのような定義なのか。CO₂のみが対象なのか。その他のものも含まれているのかが分かりにくい。また、この低炭素まちづくりを行うことで、将来どのような明るい生活となるのか。今後市民に説明する際に、重要な視点かと思う。

⇒そもそも低炭素とは何かという議論は、エコまち法が作られる際にも明確にされなかった。ただし、都市活動に伴う温室効果ガスの排出を考えると大半がCO₂であることから、都市活動に伴うCO₂の削減を主として考えて良いと認識している。CO₂が増加し、気温が上昇することで、熱射病やマラリアなどの健康面への影響や農作物への影響、集中豪雨の発生などが懸念されており、社会インフラがこのままで良いのか、機能更新をするときにこのままで良いのかが問題となってくる。低炭素まちづくり計画は、このような適応策まで盛り込むものではないが、必要に応じて追加したい。言葉の定義はしっかりする。【事務局】

- ・低炭素は、低CO₂ということが良いのか。【会長】

⇒本計画では、そのような理解で良いと考えている。【事務局】

- ・結果的にCO₂が減るということで良いのではないかと考えている。これまでのなんでも作って消費する時代から、エネルギー消費をどれだけ抑えるかにポイントが移ってきたので、クルマから徒歩への変換や健康に生活することでコストを削減するなど、その都市に合った無駄の削減策を都市構造・交通・エネルギー・緑の視点で、それぞれの立場から考えることが本計画の趣旨かと考えている。

- ・CO₂に限らず低負荷ということか。

- ・低炭素に拘らずに過ごし易いまちづくりを総合的にどうすべきかを考えるもので良いか

と考えている。

- ・つまり、幸せの定義を変えるということではないか。車を乗り回して、巨大な冷蔵庫を持つ、海外ドラマで紹介されるドライブインシアターなどに幸せを感じた時代から、街中で歩いて暮らすなどの身近なことに幸せを感じるようになったという事ではないか。このようなまちづくりには、同意を得られると思うが、あくまで低炭素まちづくり計画を考える上では、炭素というものを CO₂ で図らないといけない。ただし、本当に議論するのは、まちづくりの在り方、人々の幸せとは何かを考えるということだと思ふ。【会長】
- ・東日本大震災以降、エネルギー構造が変わってきている。これからは、省エネルギーと再生エネルギーを合わせたベストミックスに取り組んでいくことが必要ではないかと考えている。そのために、都市全体として取り組めるように、このエコまち計画にも再生可能エネルギーやEVなど様々な取り組みを入れ込んで欲しい。
- ・志木市では、どこからの CO₂ 排出が多いのか。
⇒資料 4 にお示ししているが、志木市では運輸部門と民生（業務＋家庭）部門からの排出が大半を占めている。運輸部門では、市内と市外での移動に占める割合が高く、市内居住者・市外居住者それぞれ同程度存在している。目的別に見ても偏りは見受けられない。民生部門では、志木駅の東口で多くなっている。【事務局】
- ・CO₂ の排出が、最も多い部門が運輸とのことだが、近くに遊べる環境や仕組みがあれば、移動距離が短くなるのではないか。群馬などに行かなくとも秋ヶ瀬などで遊べることも必要なのではないか。
- ・排出量の削減という観点から言うと低燃費車への補助金を定めることやインセンティブを与えるという方法もあるのではないかと思われる。
- ・市民が生活しやすい取り組みということで、最大限協力したいと考えている。資料 3 の中で、本町・柏町居住地区でのEVカーシェアとあるが、このエリアでは、2年前から小型バスを運行しており、市の支援を受けながら、徐々に利用者が増加しているところである。そのため、小型バスから利用者が移行しないように配慮して欲しい。
- ・志木市は、ほとんど交通不便地区がないので、新たな交通モードの検討をする際には、路線バスへの影響を評価した上で実施して欲しい。
⇒既存施設は最大限生かしていくことが基本であるが、超長期を見据えた検討である

ため、補完していかなければいけない部分もあると考えている。頂いたご意見は、施策検討の参考にさせて頂きたい。【事務局】

- この会議の検討結果は、出席している交通事業者やエネルギー事業者以外の業者にもアナウンスしていくのか。
⇒業者に限らず、策定された低炭素まちづくり計画は、市民に公表する予定である。【事務局】
- 原子力発電が停まっており、火力発電が中心となっているため、CO₂の排出量が多くなっている。その中で、できることとして、節電の呼びかけや、昼から夜への需要のシフト、ヒートポンプやエコキュートなどの高効率機器の導入などを市民のみなさんへと呼びかけている。
- 東日本大震災でエネルギーの需給構造が大きく変わったと考えている。コージェネレーションシステムは、エネルギー効率が8割と非常に高い。産業だけでなく、幅広く施策として取り込んで欲しい。
- 廃棄物を中心に扱っている会社であるが、環境省のエコアクション21に5年ほど取り組んでいる。このエコアクションに基づきCO₂の削減に取り組んでいるが、単に“環境”に配慮するのではなく、都市活動は“環境”、“健康”、“経済”、“安全・安心”の4つが密接に関わっているため、1つに絞って取り組むと、他の要素に負荷がかかるため、バランス良く取り組むことが必要だと認識している。
- 志木市のCO₂の排出量が示されているが、全国的に見て排出量が多い方なのか。
⇒全国的な比較はできていないが、周辺4市と比較すると低い方であるが、工場が少ないなどの地域特性が影響している。【事務局】
- 警察としては、交通規制を通じての安全性と交通の円滑性を確保することが最も重要である。信号のサイクル長の調整や自転車レーンの設置など交通規制の面から協力していきたい。
- これまで建築設備を中心として研究しており、横浜市での公共建築物のエスコなどに関わってきた。省エネルギー改修を図ることで、20%~30%など大幅に改善できるが、公共施設のリニューアルの予定は、どの程度あるのか。
⇒公共施設については、小学校・中学校が12か所あり、改修はほぼ完了しているが、市庁舎や公民館などはまだ、手が着けられていない状況である。【事務局】

- ・市民への率先行動として、公共建築物から始めていくことが必要かと思う。一方で、民間施設への対策も必要。資料に示されている志木ニュータウンのエネルギーマネジメントについてイメージなどあれば、教えて欲しい。
⇒今後検討していきたいと考えている。ただし、志木ニュータウンは、大規模な集合住宅群であり、先進的なものを入れるというよりも地道に取り組んで行くことが必要かと考えている。志木ニュータウンの人たちといっしょに取り組むことにより、今後のエネルギーマネジメントの切っ掛けを作れば良いと考えている。【事務局】
- ・パッシブ型の住宅とは、どのようなものか。
⇒高効率の器具をいれるのではなく、昔のようにひさしを伸ばして日差しを遮ったり、南側に広葉樹を植えて、冬は日差しを遮り、夏は日を入れるなど、気候風土に適した住宅を推進する方法である。【事務局】
- ・中々太陽光だけでエネルギーを確保することは難しいため、様々な再生可能エネルギーを組み合わせ、効率的に利用することが必要ではないかと思われる。
- ・志木市は、地形が平坦で市街地がコンパクトなので低炭素まちづくりがし易い環境にあると思われる。また、歴史も有しており、様々な取り組みがされている。このような日本の中で先を走っている都市が低炭素まちづくりに取り組みという意義を踏まえると、日本の最先端に行くことが求められていると思われる。つまり、今まで、日本になかったような施策を提案し、実現することが義務づけられていると思う。そのような視点で考えると、現在の施策リストのもう一歩先に行く施策の検討を目指して欲しい。【会長】
- ・将来的にバスのエネルギーは、電気系に向かうのか水素系に向かうのかが分かれば教えて欲しい。
⇒まずは、ハイブリッドと考えているが、将来的には、脱化石燃料だと思うので、現状を見ていると電気の方が近いのかと考えている。
⇒大変難しい問題だと考えている。どちらのエネルギーも一長一短なので、まだ、判断が難しいと考えている。
- ・低炭素まちづくりの目標は、今日の会議で1つに決めるのか。
⇒計画の取りまとめまでに決めたいと思っているので、その他の案も含めて、積極的にご意見頂ければと思う。【事務局】

以上